

知らぬ間に、き電停止!?

2009年12月11日の未明午前2時30分、東京仕業車両所において、検修当直と列車当直の知らない間に電車線電圧が無加圧になりました。

当日、電車内で作業に取り掛かろうとした社員はその編成がブザー鳴動・ユニット表示灯全点・電気機器点灯の現象を確認し電車の電車線電圧をチェックしたところ電車線電圧が無い事を認めました。さらに隣の電車を確認したところ同じ現象で架線に電気が来ていないのを認めて、すぐ外勤に連絡しました。外勤はすぐ検修当直に連絡しましたが、当直では「何を言っているの?」と言い、き電停止は中止になっていて、列車報も訂正され線引きになっていました。入換作業表NO4もき電停止「なし」になっていました。しかし、なぜか「送電」が停止されたのです。

この間、私たちは管理者の連絡体制が悪いことを何回か指摘してきました。まさしく、「やってしまった!」でしょう?

当日、入換電車がちょうど庫に到着していたから問題が大きくならなかったと思いますが。一步、間違えれば大事故にもつながる大ミスです。会社はどのように弁解するのでしょうか?まさか担当社員が連絡しなかったと社員・労働者に責任を押し付けるのでは・・・?

このことは、現場で働く社員の安全にもつながるものです。原因を直ちに社員に説明すべきです。

会社が好きな「他山の石」は、管理者から身をもって正すべきです。これは東京仕業車両所だけの問題ではないのです。交検車両所・修繕車両所の管理者も自分の首よりも社員の安全を第一に考えることが管理者の仕事なのです。

私たちJR東海労新幹線地本は、社員や職場の安全の為に、管理者にはきちんと物を申していきます。私たち働くものが安全で仕事が出来、生活が出来るために・!

連絡もなく「送電停止・再開」は安全に対する意識はどうなっているの?

「送電停止・再開」の連絡もない東京地区車両所、JNR時代にもこんなお粗末なことはありませんでした。安全は輸送業務の・・・何か?管理者諸君 新SKYもいいがもっと管理者のプライドをもったら・・・?!¥@